

# はじめに

加来和典

## I. 本調査の目的・概要

### 1. 調査の目的

社会調査班では、今年度の関門地域共同研究の全体テーマである「関門地域におけるソーシャル・キャピタルの蓄積状況の調査研究」を、調査票による住民調査で行なった。

調査対象地として、北九州市門司区門司港地区と下関市長府地区を選んだ。両地区とも、近年、観光化で注目されている。門司港地区は、門司港レトロを中心とした再開発が目覚ましい。一方、長府地区は、NHKの大河ドラマ『新選組!』『義経』の影響もあり、近郊の唐戸・壇之浦地区とともに観光客が増加している。いずれも両市を代表する古い町であるが、その性格は異なっている。門司港は近代化による港湾都市として成長を遂げた地区であり、北九州工業地帯の停滞や港湾機能の移転とともに衰退をみた。長府地区の歴史は古く、古代・中世・近世・近代史にそれぞれ名を残す。徳川時代に長府藩毛利氏の居城が置かれたことから、今日でも「城下町長府」と呼ばれる。豊浦郡長府町と下関市が合併してすでに70年近くを経ているが、このような歴史のためか、長府地区は独立性が強い地区とも言われる。ちなみに、同地区の地名を見ると、「長府侍町」のように「長府」を冠したものが多いことに気づく。本調査では、2地区のこのような共通点と相違点に着目し、比較研究の観点から調査対象地とした。

本調査の目的は、地域住民の社会関係がまちづくりにどのように影響を与えているかを明らかにすることである。ここでは、まちづくりとして、観光・治安・地域連携の三つを中心的に取り上げた。現代の地域社会が抱える問題は多様であり、まちづくりの範囲も広範囲化している。そのすべてを取り上げることはできないが、本調査では、とりわけ社会関係との関連が深いと思われる3点に焦点をあてた。

両地区は先にも少し触れたように、近年、観光地として脚光を浴びており、観光客の入り込み増加、商業施設の新設など、地域が大きく変貌している。この変化をきっかけに地域の活性化も生じているが、必ずしもよい面ばかりではない。

また、治安に関して、本調査では、子どもの安全に関するいくつかの質問項目を設定した。現在、全国的にも子どもの安全確保が地域的な課題となっている。子どもを巻き込む事件が頻発する背景として、地域社会の変容を指摘する声も少なくない。

地域連携に関しては、北九州市と下関市との行政連携に関する認知度を確かめてみた。さらに、両地区の住民の行き来についても調べ、住民の生活実態としての地域連携についても考察したいと

考えた。

住民の社会関係がどのような要因から形成されるのか。また、それは地域社会に何をもたらすのかといった問題は、社会学が古くから扱ってきた研究課題である。我々の分析はその延長線上にある。近年、ソーシャル・キャピタルや社会関係資本といった用語が経済学などの領域で用いられるようになってきたが、その内容はかなり拡散している。ここでは、オーソドックスに社会関係という語を使用しておきたい。先に挙げた観光化・治安・地域連携といったものが、地域住民の属性や社会関係とどのように関連するのかを中心に以下の分析を進める。

仮説的には、観光化に対する住民の態度は、住民利害を直接に反映しつつ形作られるのではない。また、観光資源の重要な要素に人的ネットワークがあるが、個々人が持つ社会関係の質や量が観光化に対する態度に影響を及ぼすことも考えられる。治安状況が住民関係の良し悪しと関連するという話はよく耳にする。土着的社会なのか流動的社会なのか、人口増加地域なのか減少地域なのか、商業地域か住宅地なのか。さまざまな地域特性が犯罪の発生と関連していると想像されるが、ここでは主に住民による地域の安全性の評価と、安全対策の方向性を従属変数とし、何がそれらを規定するのか分析を試みる。

## 2. 調査の概要

調査の概要を以下に記す。

調査名：関門地域のまちづくりアンケート

調査期間：2006年2月10～20日

調査方法：郵送法

調査対象：北九州市門司港地区・下関市長府地区の80歳未満（2006年1月1日現在）の有権者

\*両地区の全有権者数は門司港 23,911人・長府 25,038人（サンプリング時）

サンプリング台帳：選挙人名簿抄本

サンプリング方法：系統抽出法

サンプル数：門司港 601・長府 600

有効回収数：門司港 280・長府 323

有効回収率：門司港 46.6%・長府 53.8%

## II. 回答者の属性

以下では、回答者 603 人の主な社会的属性を地区別に表にまとめた。なお、ここでは、無回答は集計から除いているが、巻末に付した単純集計表では含んだものを掲載している。そちらも参照していただきたい。

## 1. 年齢と性別

表1 年齢

	長 府		門司港	
	度数	有効%	度数	有効%
20 歳代	21	6.6	21	7.5
30 歳代	26	8.2	28	10.0
40 歳代	49	15.4	41	14.6
50 歳代	91	28.6	69	24.6
60 歳代	80	25.2	58	20.7
70 歳以上	51	16.0	63	22.5
合 計	318	100.0	280	100.0

両地区とも高齢層の比率が高い。60歳以上は、長府で41.2%、門司港で43.2%となっている。門司港の方が長府よりも全体の年齢がいくぶん高いと思われる。

表2 性別

	長 府		門司港	
	度数	有効%	度数	有効%
男 性	156	48.8	126	45.0
女 性	164	51.3	154	55.0
合 計	320	100.0	280	100.0

両地区とも女性の回答者が過半数である。門司港では、女性が男性を10ポイント上回る。

## 2. 婚姻関係

表3 婚姻関係

	長 府		門司港	
	度数	有効%	度数	有効%
既婚	247	77.9	191	68.7
未婚	40	12.6	41	14.7
死別・離別	30	9.5	46	16.5
合 計	317	100.0	278	100.0

婚姻関係をみると、長府では既婚が77.9%なのに対し、門司港では68.7%と9ポイントほど低い。門司港では、死別・離別が16.5%と多く、この地区が長府に比べ相対的に高齢層からなることを反映している。なお、表にはしていないが、全体で見ると、男性では死別・離別が6.5%、女性では18.3%と、男女でかなりの違いがある。

### 3. 最終卒業学校

表 4 最終卒業学校

	長 府		門司港	
	度数	有効%	度数	有効%
旧制尋常・高等小学校	6	1.9	19	6.9
旧制中学校	16	5.1	12	4.4
旧制高校・旧制大学	5	1.6	6	2.2
新制中学校	26	8.3	34	12.4
新制高校	154	48.9	125	45.5
新制短大高専専門学校	58	18.4	36	13.1
新制大学・大学院	50	15.9	43	15.6
合 計	315	100.0	275	100.0

最終卒業学校では、両地区とも新制高校が最も多く 5 割弱を占める。両地区に顕著な違いはないが、門司港では旧制尋常・高等小学校卒業が 6.9%あり、高齢者の比率が高いことを示す。

### 4. 職業と仕事場所

表 5 職業

	長 府		門司港	
	度数	有効%	度数	有効%
農業	2	0.6	2	0.7
漁業	0	0.0	1	0.4
自営業	24	7.5	26	9.5
専門職	21	6.6	13	4.7
民間常雇従業者	65	20.4	45	16.4
公務員等常雇従業者	7	2.2	14	5.1
管理職（課長以上）	14	4.4	10	3.6
会社経営者・役員	12	3.8	7	2.5
派遣社員・臨時雇用	42	13.2	42	15.3
専業主婦	60	18.9	49	17.8
学生	7	2.2	3	1.1
無職	61	19.2	62	22.5
その他	3	0.9	1	0.4
合 計	318	100.0	275	100.0

職業構成は両地区で似ている。それぞれ多い順に挙げれば、長府が民間常雇従業者 20.4%、無職 19.2%、専業主婦 18.9%、派遣社員・臨時雇用 13.2%などで、門司港が無職 22.5%、専業主婦 17.8%、民間常雇従業者 16.4%、派遣社員・臨時雇用 15.3%などとなっている。全体的には、両地区とも都市的な職業構成であること、高齢層が多いため無職層が多いことが指摘できる。

表6 主な仕事場所（長府票）

	度数	有効%	累積%
自宅	13	7.1	7.1
長府地区	82	44.6	51.6
それ以外の下関市	73	39.7	91.3
門司区	2	1.1	92.4
それ以外の北九州市	6	3.3	95.7
その他	8	4.3	100.0
合計	184	100.0	

表7 主な仕事場所（門司港票）

	度数	有効%	累積%
自宅	7	4.5	4.5
門司港地区	74	47.1	51.6
それ以外の門司区	23	14.6	66.2
門司区以外の北九州市	36	22.9	89.2
下関市	4	2.5	91.7
その他	13	8.3	100.0
合計	157	100.0	

主な仕事場所を見てみよう。長府の回答者で仕事をしている人では、自宅7.1%、長府地区44.6%、それ以外の下関市39.7%とここまでの範囲で9割を占める。門司港では、自宅4.5%、門司港地区47.1%、それ以外の門司区14.6%とここまですべて7割弱となっている。門司港の方がいくぶん仕事場所が広がっているようだが、いずれの地区も比較的近い場所で仕事をしていることが分かる。長府から北九州市、門司港から下関市はいずれも3%前後であり、海峡を挟んだ通勤関係は弱い。

## 5. 家族人数と世帯構成

表8 家族人数

	長 府			門 司 港		
	度数	有効%	累積%	度数	有効%	累積%
1人	20	6.4	6.4	33	12.0	12.0
2人	113	36.1	42.5	94	34.1	46.0
3人	86	27.5	70.0	76	27.5	73.6
4人	48	15.3	85.3	48	17.4	90.9
5人	31	9.9	95.2	15	5.4	96.4
6人	11	3.5	98.7	5	1.8	98.2
7人	3	1.0	99.7	2	0.7	98.9
8人	1	0.3	100.0	2	0.7	99.6
10人	0	0.0		1	0.4	100.0
合計	313	100.0		276	100.0	

表9 世帯構成

	長 府		門司港	
	度数	有効%	度数	有効%
一人暮らしの世帯	19	6.0	31	11.2
夫婦だけの世帯	103	32.5	70	25.4
夫婦と未婚子の世帯	118	37.2	84	30.4
親と子夫婦の世帯	14	4.4	15	5.4
三世代以上の世帯	25	7.9	23	8.3
その他の世帯	38	12.0	53	19.2
合 計	317	100.0	276	100.0

ここからは、家族や世帯に関する属性をみる。

家族人数（本人を含む同居家族）をみると、両地区とも小家族が主流であることが分かる。家族人数が3人以下の人は、長府で70.0%、門司港で73.6%である。門司港では1人という人が12.6%もいる。

世帯構成をみると、夫婦と未婚子の世帯が長府で37.2%、門司港で30.4%ともっとも多いものの、一人暮らし世帯と夫婦だけの世帯を合計した割合（38.5%、36.6%）を下回る。小世帯化の傾向が、これらの地区でも進んでいることをうかがわせる。

## 6. 住居形態

住居形態では、両地区に違いが見られる。長府では8割の人が一戸建ての持ち家に住むが、門司港では6割に満たない。門司港では、分譲の集合住宅18.1%や賃貸の集合住宅15.6%の割合がその分高い。

表10 住居形態

	長 府		門司港	
	度数	有効%	度数	有効%
一戸建ての持ち家	252	79.7	155	56.2
分譲の集合住宅	16	5.1	50	18.1
一戸建ての借家	13	4.1	17	6.2
賃貸の集合住宅	25	7.9	43	15.6
会社の寮や職員住宅	7	2.2	8	2.9
その他	3	0.9	3	1.1
合 計	316	100.0	276	100.0

## 7. 居住経歴と居住年数

表11 居住経歴

	長 府		門司港	
	度数	有効%	度数	有効%
この地区生まれずっと暮らしている	55	17.3	85	30.6
この地区生まれ一時よそで暮らした	35	11.0	50	18.0
子供の時に転居してきた	26	8.2	22	7.9
仕事の関係で転居してきた	78	24.5	40	14.4
結婚のために転居してきた	69	21.7	68	24.5
通学ために転居してきた	1	0.3	0.0	0.0
地域の魅力で転居してきた	25	7.9	8	2.9
その他	29	9.1	5	1.8
合 計	318	100.0	278	100.0

社会関係を形成する要因として、住民の居住経歴や居住年数は重要である。

居住経歴をみると、門司港の方が長府よりも土着的であると言える。すなわち、「この地区生まれずっと暮らしている」と「子供の時に転居してきた」をあわせて土着層とするならば、長府で25.5%、門司港では38.5%とかなりの違いを示す。

また、Uターン層「この地区生まれ一時よそで暮らした」を比較しても、長府11.0%、門司港18%と、門司港の土着性が現れている。長府の相対的な流動性の高さの要因は、「仕事の関係で転居してきた」層が24.5%とかなり多いためである。また、割合は小さいが、長府地区では「地域の魅力で転居してきた」という人が25人いることも指摘しておこう。

表12 居住年数

	長 府			門 司 港		
	度数	有効%	累積%	度数	有効%	累積%
1年未満	4	1.3	1.3	5	1.8	1.8
1年以上3年未満	6	1.9	3.1	5	1.8	3.6
3年以上5年未満	7	2.2	5.3	8	2.9	6.6
5年以上10年未満	18	5.6	10.9	14	5.1	11.7
10年以上20年未満	59	18.4	29.4	22	8.0	19.7
20年以上30年未満	72	22.5	51.9	33	12.0	31.8
30年以上40年未満	64	20.0	71.9	39	14.2	46.0
40年以上	90	28.1	100.0	148	54.0	100.0
合 計	320	100.0		274	100.0	

居住年数では長府と門司港ではかなりの違いがある。

両地区とも居住年数10年未満の人が1割程度であり、比較的出入りの少ない点は共通している。しかしながら、10年以上の居住者の分布は大きく異なる。門司港では40年以上が54.0%と回答者の半数以上を占める。長府でも40年以上が28.1%と高い割合であるが、10年以上40年未満にも6割程度が分散し、混住化状況を呈している。1戸建て持ち家層が大半を占めることと合わせて考えるならば、長府地区では、宅地開発がゆるやかに混住化を深化したと推察される。一方、門司港地区では、人口流入が少ないまま、来住層も含めて全体の高齢化が進行したと考えられる。

## 8. 世帯年収

表 13 世帯年収

	長 府		門司港	
	度数	有効%	度数	有効%
2 0 0 万円未満	27	10.3	34	15.7
4 0 0 万円未満	75	28.7	70	32.3
6 0 0 万円未満	61	23.4	47	21.7
8 0 0 万円未満	35	13.4	32	14.7
1 0 0 0 万円未満	37	14.2	21	9.7
1 2 0 0 万円未満	13	5.0	4	1.8
1 2 0 0 万円以上	13	5.0	9	4.1
合 計	261	100.0	217	100.0

世帯年収の分布を見ると、門司港の方がいくぶん低い層に分布している。また、長府では1000万円以上の高所得層が1割いる。